

harmony

— 岩手県立中部病院 地域連携便り VO1.22 —

— ごあいさつ —

副院長・地域医療福祉連携室長 星野 彰



地域の皆様にはいつも大変お世話になっております。平成 21 年に中部病院が開院してもうすぐ 10 年、私が平成 13 年に県立北上病院に着任してからはなんと 17 年が経過しました。最近疲れやすいと思っていたら単純に私が年をとったのでした。

自分の高齢化もですが、このあいだに感じる大きな変化が入院患者さんの高齢化です。この 10 年間で、70 代、80 代、90 代と高齢の入院患者さんの割合が増え続けています。高齢の方は元々の体力が落ちていきますし、さまざまな病気を抱えているので、入院期間も長くなり、治療が終わっても元の体調、元の生活にはすぐには戻れない方が多くなっています。一方で、地域からは、高齢の独居のかたが増え続けているという話が聞こえてきます。そうするとどうなるでしょう。体調を崩して入院されたかたが、昔だったらまっすぐ家に帰れたのに、今は帰

れない。リハビリを目的に他院へ移られるかた、自宅に帰るために支援が必要なかた、入院を機に施設での療養を検討しなければいけないかたが増え続けています。

さてどうしたらよいか、一発回答はありません。中部病院ではソーシャルワーカー4名、入退院支援ナース8名の体制で、入院が決まった時点からアセスメントや支援をさせていただき、患者さんと家族の生活を支えることに力を入れています。しかしどんなに病院の体制を強化しても、やっぱり大切なのは実際の生活を支えている地域の皆さんとの連携です。地域の皆さんには日々、本当にお世話になっています。中部病院はこれからも地域の皆さんと一緒に市民の健康と生活を支え続けていきたいと思えます。今後どうぞよろしくお願いいたします。



お食事処ちゅうぶ

入院した人だけが味わえる
入院中のお楽しみ「給食」
どんなメニューがあるの？

第6号は
「減塩からあげ」の
ご紹介



岩手県では、減塩・適塩に取り組んでいます。今回は、病院で提供している減塩メニュー「レモン風味のから揚げ」をご紹介します。

醤油の代わりにレモン汁を使用すると、1食あたりの塩分がマイナス0.6gとなります。さらに、小麦粉などをまぶし、油をからませて焼くと、揚げたように仕上がります。1食あたりのエネルギーがマイナス60kcalです。





平成30年度 第1回地域医療研究会が平成30年8月30日(木)開催されました。

今回の一般演題はテーマを設けずに、各地域・施設で取り組んでいる事を自由に発表いただきたく募集したところ、看護師・ケアマネージャー・理学療法士・医師・歯科医師と、研究会にふさわしい多職種の皆様より申込みをいただき開催となりました。

途中、「いわて中部ネット」の進捗状況などの報告もいただき、特別講演として日本医療メディエーター協会 医療メディエーター シニアトレーナーでもあります、当院の伊藤病院長より「対話推進による患者・家族との関係調整」について講演いただきました。ユーモアを交えた語り口と、とても参考になる充実した内容で、盛会のうちに終了しました。

暑い中、また遅い時間にもかかわらず、131名ものたくさんのご参加をいただきました。ありがとうございました。

平成30年度 第2回の地域医療研究会は2月頃の予定をしております！以前よりアンケートで多くご要望いただいておりますので、次回テーマは『看取りについて』を考えております。ご期待下さい！

NST 講演会「口から食べるための包括的支援」 2018.10.19 (金)

口からの食事は、視覚、嗅覚、味覚を刺激し、脳の働きを活性化します。また、唾液の分泌が促されると、そこに含まれる酵素や抗体が感染症予防や免疫力向上につながります。そして何より、食べることは生きる喜びへとつながっていきます。

NST委員会では、平成30年10月19日(金)、NHKの「プロフェッショナル仕事の流儀」にも出演された、NPO法人 口から食べる幸せを守る会 理事長の小山 珠美先生にお越し頂き、講演していただきました。

小山先生は「口から食べる」ことの大切さや、食べる力を取り戻す「食事介助」の技術を伝える活動を全国で精力的に行っております。

以下に、ご講演内容の概要を紹介します。

.....

現在、要介護高齢者の増加に伴い、嚥下機能が低下している方々が多く存在します。口から食べるためのサポートには、摂食嚥下機能に加えてQOLを勘案した「生活者としての包括的視点」での評価と支援スキルが必要です。そのために、口から食べるバランスチャートを開発し、医療施設や在宅等の様々な現場において推進しています。

.....

当日は、200名を超える方にご参加いただきました。私達にとっても口から食べることの重要性を再認識する、いい機会となりました。



緩和ケア従事者研修会

2018.11.3 (土)

平成30年11月3日(土)、「2018年度岩手県立中部病院緩和ケア研修会」が開催されました。

「緩和ケア研修会」は、がん等の診療に携わる全ての医療従事者が基本的な緩和ケアについて正しく理解し、緩和ケアに関する知識や技術、態度を習得することを目的として開催されています。

今年度からは、厚生労働省が示す開催指針が改正されたことにより、講義及びロールプレイなどワークショップによる2日間で開催される形式から、e-learning 及び集合研修1日のみの開催となり、受講しやすい形式となりました。

今年度は、地域の医療機関、調剤薬局、訪問看護ステーションから22名(医師13名、薬剤師1名、看護師8名)のご参加を頂き、充実した研修会となりました。



平成30年度第1回 医科歯科連携研修会

2018.11.8 (木)

平成30年11月8日(木)に、平成30年度第1回医科歯科連携研修会を行いました。

今回の研修内容は、中部病院耳鼻いんこう科長 古瀬 秀和先生より「手術時におけるマウスピース使用の実際」について講演いただきました。

中部病院から歯科に作成依頼を行っているマウスピースについて、耳鼻科手術の気管挿管時の使用例を、実際の映像を用いて見て頂きました。

研修会には北上・花巻歯科医師会の先生方に多くのご参加をいただきました。講演後もたくさんの質問やご意見をいただき、非常に有意義な意見交換の場となりました。

今後も研修会の開催を企画し、医科歯科連携の推進を続けていきたいと思っております。



新任医師紹介

 小笠原 靖	着任	平成30年10月	診療科・職名	脳神経外科・医長
	学会資格等			
	ひとこと	一生懸命頑張りますので、よろしくお願い致します。		
 吉田 悠人	着任	平成30年10月	診療科・職名	産婦人科・医師
	学会資格等	日本産科婦人科学会、日本産科婦人科内視鏡学会		
	ひとこと	この度初めての岩手県勤務となります。微力ではありますが、地域の周産期医療に貢献できるよう努めて参ります。どうぞよろしくお願い致します。		
 吉田 絵里子	着任	平成30年10月	診療科・職名	糖尿病代謝内科・医師
	学会資格等	日本内科学会、日本糖尿病学会、日本内分泌学会		
	ひとこと	地域の皆様のお役に立てるよう頑張ります。よろしくお願い致します。		

【がん相談支援センターのご案内】

がん相談支援センターは、がん患者さんがご家族の方からのご相談のみならず、地域の医療機関の皆様や、医療福祉関係機関の皆様からのご相談、お問い合わせにも対応させていただいております。どうぞ、お気軽にご相談ください。

【がん相談支援センター】

TEL：0197-71-1511

<相談時間>

9時～17時（土日祝はお休み）

<担当スタッフ>

医師、看護師、MSW



岩手県立中部病院 理念と基本方針

理 念

私たちは、生命の尊厳と人間愛の精神に則って、地域の人々の生命と健康を守り、地域医療の充実・発展に貢献します。

基本方針

1. 安全・安心な医療を提供するために、患者さんとの相互協力による患者参加型のチーム医療を推進します。
2. 質の高い医療を提供するために、がん治療や救急医療などの医療機能を充実・強化します。
3. 中部圏域の基幹病院としての機能を果たすために、地域の医療機関、介護・福祉施設、行政との連携を密にします。
4. 臨床研修や生涯教育体制の充実を図り、医療スタッフの育成に努めます。
5. 職員が自分の仕事に誇りを持てるようにするために、働き甲斐のある職場をつくります。
6. 上記5項目を実践するために、健全な病院経営を行います。



地域医療福祉連携室からのお願い ◇当院は予約制です◇

基本的に外来診療は予約制とさせていただきます。

患者さんが予約なしに紹介状をお持ちいただいた場合、長時間お待たせしたり、外来の状況によっては予約を取り直して後日来院いただくこともあります。

お手数をおかけしますが、緊急の方以外はFAXで事前に予約のお申込をいただくよう、ご協力をお願いいたします。



発行：岩手県立中部病院
地域医療福祉連携室
〒024-8507
岩手県北上市村崎野17地割10番地
TEL 0197-71-1511（代表）
0197-71-1518（連携室直通）
FAX 0197-71-1881（連携室専用）
URL <http://www.chubu-hp.com/>

2018年11月